

経営一転語 62 資金は損益に優先する

「資金」というのは、現金収支に関係します。資金繰りがつくとか資金繰りがつかないとかいう「資金」のことです。企業を体に例えると「資金」は「血液」だと考えると分かりやすいと思います。

一方「損益」というのは、企業会計原則上の「損益計算書上の利益と損失」（利益の「益」と損失の「損」を取って「損益」と言っています。）ということです。

ここで、注意しなければならないのは、「損益計算書上の・・・」ということで、会計原則に従って、利益を計算しますが、利益が出ていても、お金がないということがあり得るのです。

これが、「黒字倒産」という現象です。簡単に説明しますと、売掛金と買掛金の存在がかなり影響します。

説明するために簡単なモデルで説明します。

A社はある月に10百万円売り上げました。しかし、全額翌月払いの掛け売りです。一方、費用はその月に8百万円かかりました。

この場合、損益計算書では売上10百万円、費用8百万円、利益2百万円となり、利益が出ています。

しかし、資金は、売上金の入金がありませんので、費用の8百万円が出金されているだけで、資金は8百万円足りません。つまり、資金ショートです。

足りない分は、借入金を借りるか、支払を待ってもらうか、もし手形を受け取っていれば、手形を割り引くか、会社が代表者から借り入れるか、ということを考えなくてははいけないのです。

このように、「利益が出ていること」と「資金収支のバランスがとれていること」とは全く別のことです。

「資金」は、会社存続という観点からすれば、「損益」に優先します。赤字をいくら出しても、資金が続いている限りは倒産することはありません。

反対に、いくら利益を上げていても、資金がショートすれば会社はつぶれてしまいます。特に支払手形を出していれば、待ったなしです。（私は、支払手形の発行や受け取りを勧めません。）

社長は「資金は苦手なので経理に任せている」ではすまされません。資金の実態を知り、我が社の事業経営に必要な資金繰りを計画し、調達し、運用しなければいけないのです。